

テーマ番号	③施工計画・施工管理に関するもの
-------	------------------

アスファルト混合物の温度管理について

工事名	令和5・6年度糸魚川管内路面維持補修工事
工事場所	糸魚川国道維持出張所管内
会社名	北川ヒューテック株式会社
発表者	戸田 拓巳

1.はじめに

本工事は、一般国道8号線の糸魚川市大字徳合～糸魚川市大字市振までを工事区間とする、舗装の維持補修工事である。
 主たる工種は欠損部補修・目地補修工・舗装打換え工・切削オーバーレイ工となる。
 今回は、舗設施工時におけるアスファルト混合物の温度管理について記述する。

2.概要

アスファルト舗装の温度管理での品質管理基準及び規格値は、初転圧前(110℃以上)としか明記されていない。
 所定の密度の確保及びライフサイクルを長期化する上で温度管理は非常に重要な項目と思われるため他工程についても管理する必要があった。

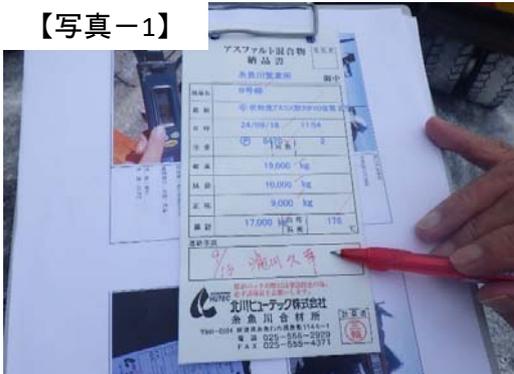
3.方法

大きく5段階に分けて、出荷・到着・初転圧前・初転圧後・2次転圧とし、目標値を立て管理する事とした。

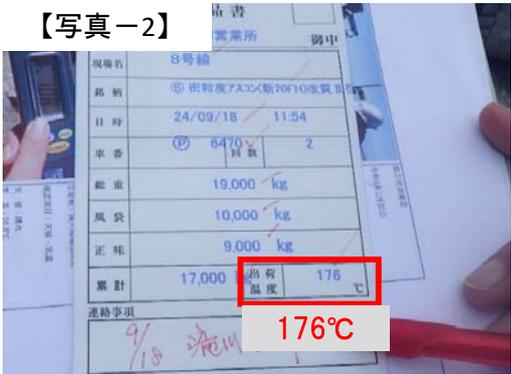
①出荷温度

配合設計を基に練り落されたアスファルト混合物の温度
 合材所管理値内に製造された確認し、納品伝票(写真-1・2)の発行

【写真-1】



【写真-2】



※記載写真については⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型の温度
 ※⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型 170℃以上 ①安定処理・②粗粒度アスコン(20) 150℃以上

②到着温度

現場に到着した時のアスファルト混合物の温度(写真-3・4)

【写真-3】



【写真-4】



※⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型 165℃以上 ①安定処理・②粗粒度アスコン(20) 145℃以上

③初転圧前「規格値項目110℃以上」
アスファルト混合物を敷均した時の温度(写真-5・6)



※⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型 160℃以上 ①安定処理・②粗粒度アスコン(20) 140℃以上

④初転圧後
アスファルト混合物を転圧した時の温度(写真-7・8)



※⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型 145℃以上 ①安定処理・②粗粒度アスコン(20) 130℃以上

④初転圧後
アスファルト混合物を転圧した時の温度(写真-9・10)



※⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型 110℃以上 ①安定処理・②粗粒度アスコン(20) 100℃以上

4.結果

転圧終了後、コアを採取し締固め度を測定、結果表を(表-1)に記す。

※徳合地区5箇所の平均値 (表-1)

合材種類	締固め度	
	規格値(%)	実施値(%)
①アスファルト安定処理	96.5以上	98.9
②粗粒度アスコン(20)	96.5以上	98.8
⑥密粒度アスコン(新20FH)改質Ⅱ型	97.0以上	99.2

5. 考察及びまとめ

徳合地内の施工に関しては、夏期の施工であったが冬期にさしかかり他地区の施工もあり、また工事区間も長いことから保温対策や当日の出荷状況を鑑みながら施工等に努めたい。

今後も、温度管理に限らず、事故を未然に防ぐために過去の災害事例等を活用しながら『無事故・無災害』を目指して作業に邁進していきたいと思いをします。

